



山都の未来へ繋ぐ一歩！

第5回子ども議会オンライン開催

1月27日、子ども議会が開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染状況に配慮し、Web会議システムを使ったオンライン形式で行われました。

清和中学校2年生の荒木麻帆さんが議長を担当し、各校の代表4名ずつ選ばれた生徒12名が議員として参加しました。生徒たちは、町の現状や課題、地域の事例を調べ、自身の学校生活での体験などを参考に、町の活性化に向けた取り組みについて、町執行部へ質問や提言を行いました。中学生の視点から町の将来に向けた鋭い質問や提案を堂々と発言していました。

子ども議会について

山都町子ども議会は、郷土に誇りを持ち、町の未来を担う人づくりを目的とした『山都塾』の一環として、平成29年度から開催しています。第2回子ども議会では提案された「光害防止条例の復活」は、『山都町星空間境保全条例』のきっかけとなりました。

また、整備中の運動公園にも、これまでたくさんの提案があっており、幅広い世代の意見を取り入れながら進めています。



3. 山都町トマト祭りの開催について

清和中学校 1年 梶原 尚文 議員

問

山都町は農業が盛んで沢山の農作物が作られています。しかし、様々な場面で農作物が捨てられているのを見かけます。私の家もトマト農家で、形が悪かった1割のトマトは出荷できず、捨ててしまいます。どうにかして使えないか考えたところ、スペインではトマト祭りというトマトを投げ合う祭りがあり、2万人の参加者が集まるそうです。山都町で開けば地域との交流やトマトを活用することができ、日本で海外のイベントを楽しめるのでたくさんの人に来てもらえると思います。出荷できないトマトが山都町に来てもらうために使われるので、農家の方も協力してもらえると思います。名産であるトマトを有効活用しつつ、山都町の活性化をするために「山都トマト祭り」の開催を提案します。

答

農林振興課長
山都トマト祭り開催のご提案について、廃棄

山都町は農業が盛んで沢山の農作物が作られています。しかし、様々な場面で農作物が捨てられているのを見かけます。私の家もトマト農家で、形が悪かった1割のトマトは出荷できず、捨ててしまいます。どうにかして使えないか考えたところ、スペインではトマト祭りというトマトを投げ合う祭りがあり、2万人の参加者が集まるそうです。山都町で開けば地域との交流やトマトを活用することができ、日本で海外のイベントを楽しめるのでたくさんの人に来てもらえると思います。出荷できないトマトが山都町に来てもらうために使われるので、農家の方も協力してもらえると思います。名産であるトマトを有効活用しつつ、山都町の活性化をするために「山都トマト祭り」の開催を提案します。



4. 「みんなで遊ぼうDAY」について

清和中学校 1年 藤川 美優 議員

問

コロナ禍で、体と接する機会が減っており、寂しく感じている町民の方も少なくないはずです。そこで、地域の方に元気に過ごしてもらえよう子どもから大人まで楽しく遊べる日「みんなで遊ぼうDAY」を提案します。遊ぶ場所はそれぞれの地区の体育館や運動場、廃校などで行います。例えば、お年寄りの方にも楽しんで貰えるように昔の遊びを教えようだったり、ヨガやエクササイズ、スポーツなど一緒に楽しんだりすることで地区の交流になると思います。また、私たち中学生も世代を超えて交流すること、将来に向けて夢をもつきっかけにもなると思います。コロナ予防を徹底しながらも楽しいことをすること、町が活発になり山都町が賑やかになると考えます。

答

福祉課長
遊びの中でも、高齢者と子どもと一緒にできるものとして、折り紙やお手玉、けん玉などがありま

す。手を使うばかりでなく、平衡感覚や空間認知能力、注意力、記憶力、バランス感覚を鍛えることで、身体機能の維持や認知機能の低下予防につながります。自治振興区や学校の行事などで、世代間交流をされていると思いますが、人との交流はコロナ禍で減ったコミュニケーションの機会をつくることになるので、老人会や地域の代表の方と相談し老人会の行事への参加や、地域のサロンへの参加など取り組みやすいことから交流できるよう進めます。昨年度から、矢部高校と地域との交流で、高齢の男性や移住者の方々の料理教室や、認知症パズルの作成を行っています。地元の高校生が作成したパズルを使って交流する機会を設けることも、きっかけづくりの一つになると考えます。高齢化が進んでいる本町ですが、子どもから高齢者まで元気に交流している様子を広くPRできれば、山都町を広く知って貰えることにつながっていきます。



1. 通学路の整備と街灯の設置について

清和中学校 2年 北所 柚華 議員

問

山都町はとても自然が豊かで、多くの観光客の方が山都町にいられて、紅葉の時期などには写真を撮られたり、四季折々の風景を楽しまれたりしています。一方で通学路の歩道をふさぐように草木が茂ってくることもあります。通学路や法面などを今後整備する予定はあるのでしょうか。また、街灯が設置されていない場所も多くあります。民家が少ない場所もあり、とても暗い中で下校することもあります。街灯がきちんと設置されれば、より安全に登下校することが可能になり、健康のためにも走っている人にとって良いことだと思います。災害復旧費等から電灯の設置代などを捻出するわけにはいかないのでしょうか。多くの人が安全に道路を使用することを期待しています。

答

学校教育課長
日頃から通学路の安全確保については、学校

や保護者、民生委員、ボランティアの皆様、警察や熊本県等各機関の皆様のご協力をいただきながら、町としても取り組みを推進しているところです。各学校で確認いただいた通学路の危険箇所等の情報については、学校、PTA、警察、行政等で組織する山都町通学路安全推進会議が把握・整理に努め、年に一度現地を確認し、優先順位の高いものから順次整備につなげています。街灯については、対象が広範囲にわたることや設置後の維持管理の問題もあり、すぐにご要望通りには設置できていないのが実情です。なお、自然災害とは直接の関連が無いため、災害復旧費とは別に予算を確保する必要があります。山都町通学路安全推進会議の中で、優先順位や緊急性を勘案しながら、設置について対応を検討してまいりたいと考えます。

2. ICT環境に適した机のサイズについて

清和中学校 2年 那須 葵 議員

問

山都町でも1人1台のタブレット配付があり、授業の中では発表する時や調べ学習をしたるときなど、いろいろな場面で活用しています。私は使っている机のサイズを大きくしてもらえないかという提案をします。現在の机の大きさは幅60cm、奥行き40cmのもので、タブレットは幅が約26cm、奥行きが21cmあり、机の約4分の1を占める割合となっています。そうすると、教科書も机に置いてあるので授業中にものが落ちてしまったり、字が書きづらくなったりしてしまいます。そのため、できれば幅70cm、奥行き50cmの規格の机であれば、物を置けるスペースも広がり、タブレットを活用しながら、更に授業を受けやすくなると思います。

答

学校教育課長
昨年度、一人一台のタブレットの配置が完了し、本年度からタブレッ

的に始まっています。タブレット端末の導入により、教科書やプリントを一緒に置く机のスペースが不足するという問題は学校も教育委員会も認識していたところですが、実際に使用する生徒さんから「狭くて使いづらい」と直接指摘を受けたことで、対応の必要性をさらに実感したところです。教育委員会では、各学校からお話を聞きながら、新しい規格サイズへの机の入れ替えを、令和2年度から開始し、計画的に進めているところです。令和8年度には、全部の小中学校の机の入れ替えを完了する予定です。それまでは余った机を活用するなど工夫して学習いただければと思います。今後も児童生徒のみなさんが、ICT教育など時代に合った教育を快適に受け、学習効率が向上するように、環境整備に努めて参りたいと思います。



11. 親子で遊べる公園遊具の設置について

矢部中学校 2年 荒木 こはる 議員

問

子育て世代を意識した、子どもたちが喜ぶアスレチックの設置について提案します。設置について、事前にインタビューしたところ、「子どもがのびのびと育つことができる環境になる」、「体力の向上になる」、「メリットがある反面「コロナの感染者が増える」など反対の声もありました。そこで、感染対策を徹底したアスレチック広場を造るのはどうでしょうか。アルコール消毒やマスクの着用などを喚起するなど、対策をとればよいと思います。

答

生涯学習課長
第二次山都町総合計画策定の時に実施したアンケート調査で、子育てしやすい環境づくりとして公園の整備が要望されております。現在整備を進めている運動公園には、ちびっこ運動広場を計画して、その中にアスレチック施設を設けるように準備を進めております。具体的な遊具の中身はこれから検討しますが、子育て世代のご家族が、安全に子供を見守りながら、気軽に遊べるスペースを創りだしていきたいと考えております。

また、コロナの感染対策については、屋外の施設になりますのでアルコール消毒などは難しいと思われる。マスクを着用のうえソーシャルディスタンスを保ちながら、使用後の手指消毒やうがいの徹底をお願いしたいと存じます。



12. 山都町農家のPRと、通潤橋をモチーフにした水道設置について

矢部中学校 2年 山本 麻奈 議員

問

山都町の農業の楽しさやうれしさをまとめた農家のPR動画を作り、学校や道の駅などで流すことを提案します。これにより、農業に興味を持つくれる人が増え、山都町の農業が活性化すると考えます。また、農業をする人が増えることで自給自足にもつながります。地球温暖化などの環境問題が深刻化している今、農業をする人を増やすのはとても大切だと思います。また、去年提案した『建設中の運動施設に通潤橋をモチーフにした水道やプール等の設置』に対して現在どんなことがすめられているでしょうか。高速道路が開通すると多くの人がこの山都町を訪れることとなり、訪れた人がインスタグラムやSNSに投稿すると、山都町をより多くの人に知ってもらえる機会になると思います。

答

農林振興課長

現在、新規就農者の増加を目指し、関係者と協力しながらPR動画の制作を行っています。映像は、これから就農を志す若い世代をターゲットに作成しており、移住されて有機農業に取り組んでいる方たちや、その方の研修先だったベテラン農家さんなどが農場で栽培されている映像として、2月には完成しますので、多くの場所で流して、山都町の農業の認知度向上と新規就農者の獲得を図るために活用して参ります。

答

生涯学習課長



9. 安心・安全に生活できるための街灯の設置について

矢部中学校 1年 増本 翔 議員

問

秋季から冬季にかけて夕暮れが早くなることや、地震や台風・停電などの自然災害が起こった時に光がないと困ります。そのため、街灯を設置することが大切だと考えます。現在は町中ではたくさん街灯があり、みんな安心して下校できていますが、お店の少ないところでは街灯がなく、不安になります。また、街灯を青色にすることで犯罪を抑制することができ、より安心につながります。そして、山都町が安全と思っていただけると、山都町により多くの人がやってきていただける機会にもなるはずだと思います。

答

総務課長

街灯の設置効果として、見通しが良くなることによる交通事故等の防止と、犯罪防止の効果があると考えます。「明かり」には人々の心に安心感や暖かさを与える心理的な効果もあるのではないのでしょうか。また、白色や昼光色の蛍光灯がほとんどありますが、青色蛍光灯については、益城町で確認しています。犯罪抑止効果につきましては学術的な効果検証を見いだすことは出来ませんでした。青い色がもたらす印象としては、落ち着く・冷たい・冷静・安心などの調査結果があるようです。点在する集落が多い山都町における街灯設置につきましては、町で設置したものや電気代を負担しているもの、一方で行政区・集落単位で設置されているものなど様々で、町や地域で設置する経費や維持管理する経費の予算確保が必要になります。私たちは、車での移動がほとんどですので、徒歩や自転車の皆さんとは、視点が異なり暗さに気づいていない点が多々あると思います。是非みなさんから役場や地区役員の方々に提案をお願いしたいと思えます。地域の皆様と一緒に考えて参ります。

10. SDGs 未来都市に選定された山都町の新しい取組について

矢部中学校 2年 井手 涼太 議員

問

高齢者に元気に過ごしてもらうため、専用のジム兼リハビリ施設を設置することを提案します。これは、SDGsの第3項目の「すべての人に健康と福祉を」に当てはまります。ジムを町中に設置することで高齢者のコミュニティが広がる、コミュニケーションの場が増える、商店街が潤います。これにより雇用が増えるため11項目の「住み続けられるまちづくり」にも寄与します。さらに巡り巡ってSDGsの軸である「持続可能な社会」につながるはずです。加えて、SDGsを推進するにあたって山都町ではどんなことに力を入れているか質問します。

答

企画政策課長

山都町の高齢化率は、50%を超えており県内で一番高い状況です。そのような中で、住み慣れた地域で、皆様が健康で質の高い生活をそれぞれ楽しみ、安心して暮らせるまちづくりを進めることはSDGsのゴールのひとつ、「すべての人に健康と福祉を」につながります。町では、役場や地域団体や福祉事業者などが連携しながら、各地区でのサロン活動や、健康づくりや介護予防事業に取り組んでいます。千寿苑では「ふれあいスポーツクラブ」や「かよいの場」が開催されており、「筋トレ教室」や「100歳体操」などが行われています。身近な場所でも高齢者の方々が参加しやすい環境づくりを進めていきます。



7. 新型コロナウイルス感染症対策のための接触アプリの導入について

蘇陽中学校 2年 中村 こゆき 議員

答 企画政策課長
新型コロナウイルスが感染拡大しています。が、接触確認アプリは、陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く

問 新型コロナウイルス感染症対策のための接触アプリの導入を進めてはどうでしょうか。また、そのために必要なことを述べたいと思います。
一つ目に住民向けの小規模の情報機器講習会を開くということです。山都町は高齢者の割合が増加傾向にあり、またスマートフォンをはじめ、情報機器の使用が困難な住民も存在します。よって、講習会の必要性を感じます。
二つ目に情報機器の普及率をあげるということです。これにより情報伝達の手速が速まり、感染症対策の問題解決ができます。また、スマートフォンを所持するとの得になるような給付金等の対策を行えば、より効果が見込めると考えます。

受けることができます。また、町の防災アプリ「ライフビジョン」やホームページからもコロナ感染症の感染状況を発信しています。ご提案のようにアプリを活用して様々な情報を得るため、スマートフォン等の情報機器の普及や、操作に慣れた方への支援は重要であると考えています。
本町においては、現在、情報機器の導入のための補助制度はありませんが、光サービスを提供する会社と連携して、スマホ教室の開催など地域での相談窓口の充実に向けた準備を進めており、また、生涯学習の一つとして、ICT講習会を開催しています。情報伝達という観点からは、防災行政無線や広報やまと、HPなど複数の手段により、「町における新型コロナウイルス感染症の発生状況」を始めとする町の様々な情報を、わかりやすく住民のみなさまへ届けられるよう努めて参ります。



8. 廃校の高齢者を中心とした運動施設としての活用について

蘇陽中学校 2年 橋本 那央 議員

答 福祉課長
廃校の利活用については、自治振興区で有効活用されている事例もあり、地域の高齢者の方も足を運びやすいと思います。今は色々な施設で通信環境

問 現在、山都町にたくさんある廃校の利活用として、高齢者を中心とした体を動かせる施設としての利用を提案します。山都町では高齢化が進んでおり、若い人たちが少なくなっています。施設を開設することで体を動かすことにつながり、健康にも良く、人々の交流やコミュニケーションを取る場にもなるのではないのでしょうか。高齢者だけでなく、様々な世代の人々が活用できるよう遊具など遊び場を設置すれば、子どもなど若い世代も増え、町内外からの利用者を呼びこめて活気があるのではないかと思います。そのような施設ができれば、山都町に来るきっかけにもなり、大勢の人にも山都町を知ってもらうことができると思います。

が整い、インターネットを使った様々なイベント等が行われています。高齢者を対象とした取り組みの例として、上益城リハビリテーション支援センター（益城町）で開催されているオンライン体操教室や百歳体操を、本町の千寿苑や文化の森、蘇陽支所で行っております。通信環境が整えば、YouTubeやスポーツを活用した取り組みも実現し、町内外を問わず子どもから高齢者まで、様々な世代の人たちの交流も図れると考えます。3年前より高齢者の健康維持、健康増進に係る活動にポイントを付与し商品券と交換する、幸齢者はぴねすポイント事業を実施しています。高齢者の方が体を動かす機会が増える、ポイント事業の参加も増え健康維持にもつながるとともに、町内での消費拡大にもつながります。このようなポイント事業を色々な取り組みに広げると、さらに地域活性化につながることを期待できます。



5. ゴミの不法投棄を解消するためのごみ箱設置について

蘇陽中学校 2年 田中 彩葉 議員

問 ごみの不法投棄を解消するために指定箇所のごみ箱設置を提案します。現在、バス停などの公共の場にごみ箱が置かれていない所が多いと思います。また、山都町ではごみの不法投棄に対する対策が少ないように感じます。ごみの不法投棄が発生する原因としてごみ箱の設置場所がわからないことも考えられます。よって利用者の多いバス停など公共施設周辺に設置することで利用も増えると考えられるため、場所の検討も合わせてお願いいたします。結果、ごみの不法投棄削減につながるのではないのでしょうか。加えて、煙草の吸殻の不法投棄や火災防止のためのタバコ専用のごみ箱の設置も考えてほしいと思います。ごみが減り少しかれいで過ごしやすいう山都町になるようご検討よろしくお願いたします。

答 環境水道課長
山都町では不法投棄対策として、28区ある自治振興区ごとに「美しいまちづくり推進委員」1名を委託しており、毎月地区を巡回して頂き、不法投棄等の監視をお願いしております。また、防災無線や広報やまと・ホームページで定期的に不法投棄の禁止等について啓発を実施しているところです。しかしながら、ごみや煙草のポイ捨ては後を絶たず非常に残念なことであり、ごみ箱の設置につきましては、バス停の維持管理は地区においてされており各地区の判断とはなりますが、不法投棄防止のため設置して頂けるようお願いしていきたいと思っています。また公共施設については現状を把握し必要と判断される箇所は設置していきたいと考えています。
併せて、町民一人一人の環境美化意識と喫煙マナーの向上が最も大切となりますので、今後もごみの不法投棄がない町を目指して、効果的な啓発活動に努めていきたいと思っています。

6. 空き家の有効活用について

蘇陽中学校 2年 甲斐 蔵之助 議員

問 山都町には空き家バンクというシステムを利用して情報の発信が行われていますが、住居以外の利用法として三つの方法を提案いたします。まず、一つ目に山都町はキャンプ施設が多いです。その一つとして地域内外問わず宿泊施設としての利用の検討をお願いいたします。
二つ目は防災の時に活用できる非常時の貯蔵庫としての活用や地震や大雨などの災害時に使える防災センターとして活用することです。
三つ目は地域の交流場所としての開放です。公民館以外の場所としての活用も地域の絆が深まると考えるからです。

答 総務課長
空き家が健全な状況で、地域の皆様で適切な管理運用が出来る状況であれば、備蓄倉庫として活用が可能と考えます。自主防災組織から提案いただき、持ち主の方と相談できれば、具体的な備蓄品の配置を進めていきたいと思います。また、防災センターとして空き家を活用することにつきましては、住宅機能を防災センター機能への変換は、建物の構造的な問題もあり現実的でないと考えます。



子ども議会を終えて



清和中学校 2年
荒木 麻帆 議長

私は昨年も子ども議会に参加し、公園の遊具設置を提案しました。今回は議長を務めることになり、昨年よりも気を引き締めて進行しました。今回の質問では、街灯設置や、机の大きさ、SDGsに関する事など中学生の観点から山都町の課題を考えました。また、提案に対する答弁で、山都町ではどのような取組をされているのか、これからのような対策をするのかということが分かりました。子ども議員の色々な視点からの提案やその答弁を聞くことができて、とてもいい時間を過ごすことができました。この経験を生かして、これからの生徒会活動や生活につなげていきたいです。

子ども議員の感想

- ・とても緊張したけれど、しっかりと自分の提案を伝えることができた。今回私たちが提案したことでも山都町が良くなっているといういいなと思いました。
- ・今回の子ども議会に参加することができ、とてもうれしく思います。この経験を活かしながら、地域やSDGsについて考えていきたいと思っています。
- ・山都町のことをここまで深く考えたのは初めてでとても良い経験になりました。
- ・子ども議会を通して、自分の身の回りの課題について考えることができるようになりました。中学生の意見に対して真剣に答弁していただいたのが嬉しかったです。
- ・今の山都町では、どんな取り組みがされているのかわかることができ、自分の意見を言うこともできてよかったです。初めてのことが多くとても貴重な経験ができました。

梅田町長からメッセージ

議員の皆さんの積極的なご意見をいただき、若い世代の町への思いを知ることができて大変うれしくおもいます。自分たちの生活の中で感じていることや高齢化が進む町の将来に関する事等、子どもの目線で捉えたすばらしい提案でありました。次回の子ども議会では「ここまで実行することができました。」と報告できるような取組みをしていかなければという思いです。今回も子ども議員の皆さんから貴重な意見をいただきありがとうございます。



山都町議会

藤澤議長からメッセージ

最近若い人はなかなか政治に関心がないと言われる中、議員の皆さんの身近な問題について日頃考えていらっしゃることを、こういう場で表現・発言することはとても大事な

ことだと思えます。また、学ぶことも大事です。昔に比べ、今は学習環境にも恵まれています。これを機に一生懸命勉学に励まれ、仮に町外に進学や就職をされても、のちの将来には、この山都町に帰ってきて山都町のために頑張っていただけだと思います。ありがとうございました。

◀右から藤澤議長、町長、副町長

